

第44期 株主通信

2023年4月1日 ▶ 2023年9月30日



...for patient comfort.



ごあいさつ



株主の皆さまには平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2024年3月期上期は、新型コロナウイルス感染症の影響もほぼ無くなり症例数が増加いたしました。一部製品の独占販売契約終了により売上高は前年同期比でわずかに減少いたしました。一方で収益性の高い自社製品の販売が好調に推移したことから、営業利益は前年同期を上回りました。また、新領域である脳血管関連商品の販売も予想を上回って進捗しております。

下期は、心臓血管領域の新製品の販売強化に注力するとともに、脳血管及び消化器領域の事業拡大にも継続して取り組むことで、本年5月に公表した中期経営計画の達成に向けて着実に取り組んでまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 鈴木 啓介

Q 上期の業績について教えてください

A 2024年3月期上期は、売上高は25,132百万円（前年同期比1.4%減）となりました。「RF Needle」の商流変更の影響が大きく、減収となりましたが、コロナ禍明けの事業環境は、期初の想定よりも良好でした。EP/アブレーションでは自社製品のEPカテーテル関連の売上が過去最高となったほか、心臓血管関連でも自社製品が全般的に堅調に推移し、売上高に占める自社製品比率は59.1%（前年同期比5.2pt増）に伸ばいたしました。これを受け、利益面では、人件費の増加や営業活動に伴う

販売関連費の増加等のコストアップを吸収し、営業利益は5,472百万円（前年同期比6.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は4,033百万円（同9.0%増）といずれも増益となりました。

また、中期の重点施策についても、この上期は着実に進捗いたしました。「競争力ある製品の継続的な導入」については、当社の主力製品の1つである心腔内除細動カテーテルの新モデルの本格発売に向けた準備が計画通り進捗いたしました。また、8月にはオープンステントグラフトの新製品を発売し、競争力のさらなる強化を図りました。「新領域の取り組み」においても、脳血管・消化器ともに上市後

の製品は医療現場から良好な評価を受けており、市場への浸透が順調に進みました。

Q 通期の業績予想について教えてください

A 上期の業績の期初予想に対する進捗度と下期の見通しを踏まえ、通期の業績予想を上方修正いたしました。修正後の業績予想は、売上高50,680百万円（前期比2.1%減）、営業利益10,945百万円（同1.0%増）、親会社に帰属する当期純利益7,902百万円（同14.7%増）です。

上期は自社製品を中心に売上高は期初予想を5.2%上回りました。自社製品比率が59.1%まで高まったことから、営業利益は期初予想に対して21.9%増と大きく上回りました。

下期についても、販売は好調を維持する見通しです。既存製品の安定的な成長をベースに、オープンステントグラフトの新製品や下期から販売する大腿静脈用止血デバイスも収益の底上げに貢献してまいります。一方、販管費については、通期では期初予想並みで着地する見通しです。以上の見通しを踏まえて、通期の業績を上方修正いたしました。

また、配当についても、期初予想の1株当たり38円から42円へ引き上げいたしました。中期経営計画では株主還元を強化することを掲げており、配当の目安は配当性向40%としているため、業績予想の上方修正に合わせて配当予想も引き上げいたしました。



オープンステントグラフト
「FROZENIX Partial ET」



大腿静脈用止血デバイス
「VASCADE MVP」

Q Meril Life Sciences社との独占販売契約について教えてください

A インドのグローバル・メドテックカンパニーであるMeril Life Sciences社の経カテーテル人工心臓弁について、10年間の独占販売契約を締結いたしました。当社は、2019年までの約30年間にわたり人工弁を取り扱ってまいりました。カテーテルを使って人工弁を留置する治療は、外科的に留置する治療と比較して患者様の身体への負担が小さいため、さらに拡大していくことを見込んでおります。今後、上市に必要な準備を進め、数年以内の発売を目指してまいります。

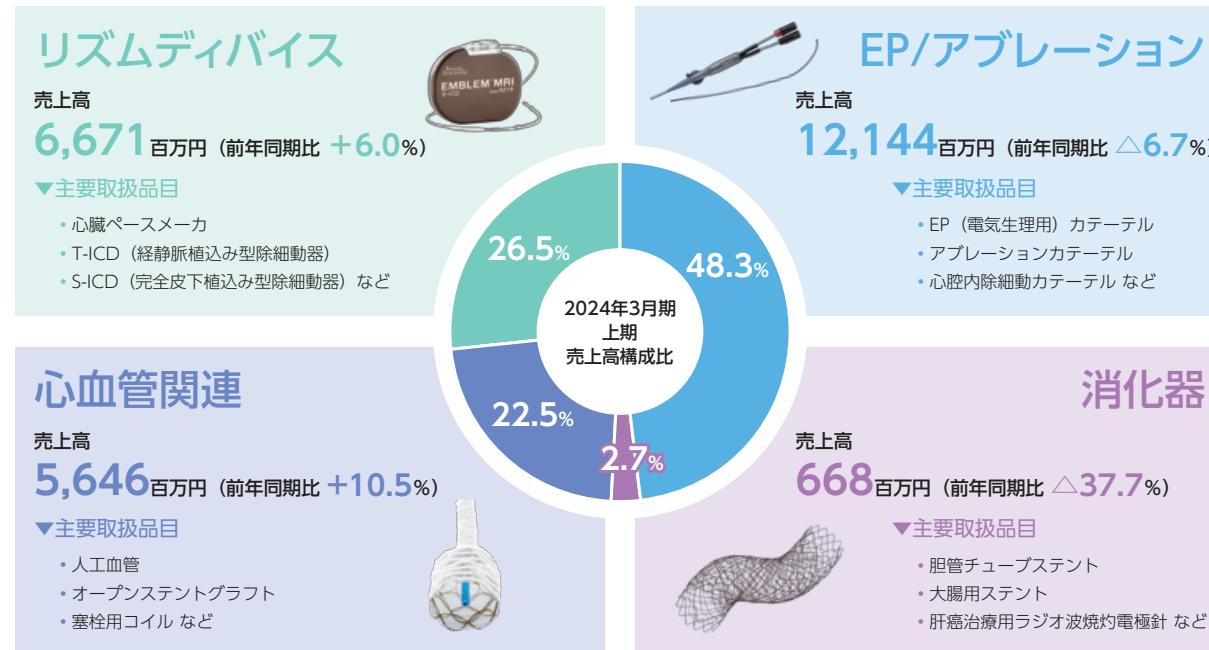


経カテーテル人工心臓弁
「Myval Octacor」

販売ハイライト

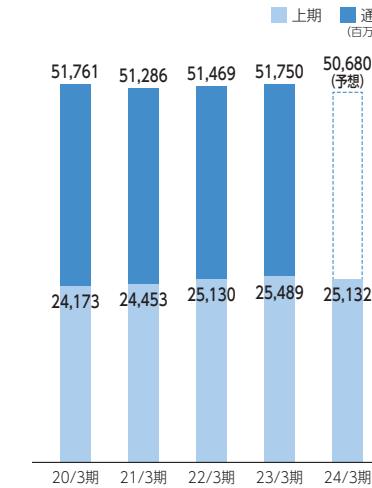
品目別の販売状況

- リズムデバイスは、ペースメーカー関連は他社の新製品の影響を受けたものの、ICD関連はオンリーワン製品であるS-ICDの訴求により好調に推移したことから、増収となりました。
- EP/アブレーションは、心房細動のアブレーション治療の症例数が増加したことを背景にEPカテーテルが好調に推移したものの、「RF Needle」の商流変更の影響により、減収となりました。
- 心血管関連は、人工血管関連において人工血管及び腹部用ステントグラフトが着実にシェアを伸ばしたほか、脳血管関連において塞栓用コイルが好調に推移したことから、大幅な増収となりました。
- 消化器は、消化器関連において胆管チューブステントが堅調に推移したものの、コロナリー・インターベンション関連の販売を縮小したことにより、大幅な減収となりました。

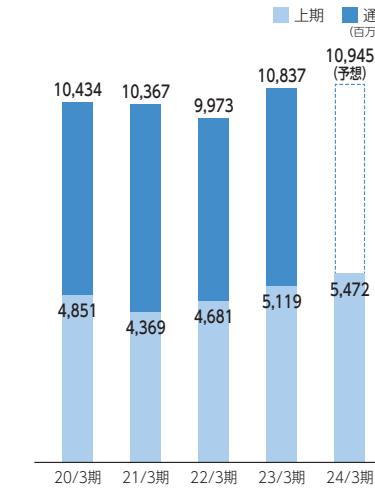


主要連結財務データ

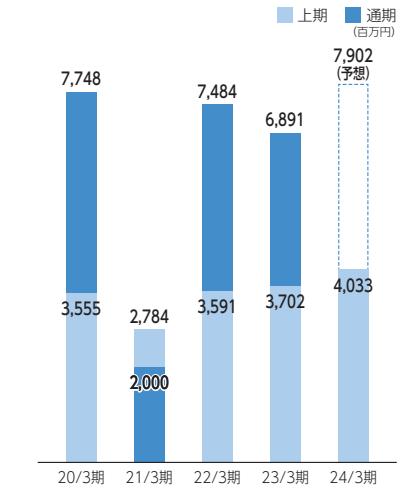
売上高



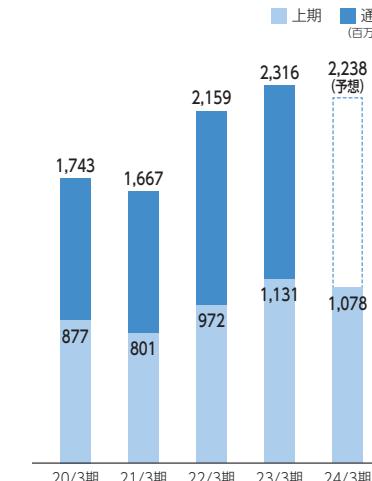
営業利益



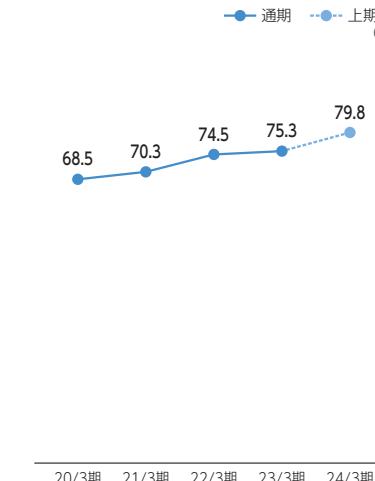
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



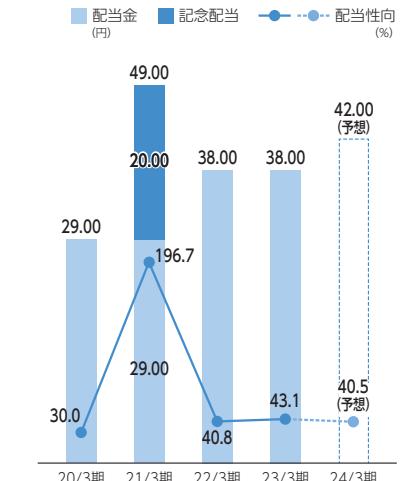
研究開発費



自己資本比率



配当金・配当性向



特集 ー大動脈治療領域をカバーする当社の製品群ー

■ 大動脈疾患について

大動脈は心臓から全身に送り出された血液が通る最も太い血管であり、主要な疾患には「大動脈瘤」と「大動脈解離」の2つがあります。

「大動脈瘤」とは、動脈硬化や感染症など何らかの原因で大動脈がこぶ状に膨らんだ状態です。また、「大動脈解離」は血管内壁の一部に亀裂が入り、血管壁が剥がれて裂けた状態です。どちらも放置すると血管が破裂して大出血を引き起こす可能性のある、生命に関わる重大な病気です。

■ 大動脈疾患の治療法と当社の製品群

大動脈疾患の根本的な治療法は、病変部を切除し人工血管と置き換える「人工血管置換術」です。これは、全身麻酔下で開胸もしくは開腹手術により実施されますが、身体への負担が大きく、高齢者や合併症を誘発する可能性がある患者様は手術ができないという問題があります。

そこで新たに「経カテーテル的ステントグラフト内挿術」という方法が実施されるようになりました。ステントグラフトは、人工血管の内側にステントというパネ状の金属を縫い合わせたものであり、カテーテル（細い管）を用いて足の付け根から挿入し、病変部で拡張し固定されます。手術による負担は少ないものの、病変部が広範囲にわたると実施できない場合があります。また、血管と縫合しないため、まれにステントグラフトの位置がずれ、血液が漏れてしまうことがあります。

また、近年「オープンステントグラフト術」という方法が実施されるようになりました。これは人工血管の片側にステントを縫い合わせてあり、開胸手術により上部は血管と縫合し、下部はステントの拡張により固定します。位置がずれる可能性が低く、また、病変部が広範囲にわたる場合にも治療を可能とします。

当社は大動脈疾患の治療に使われるこれらの主要な医療機器を取り揃えています。



■ 医療現場のニーズをかたちにした「FROZENIX」とさらなる進化

当社の製品ラインナップの中でも、医療現場の課題を把握し、それを解決するために開発を進めて生まれた製品がオープンステントグラフト「FROZENIX」です。

オープンステントグラフトを使用した治療法は日本発の術式になります。この術式は、従来2回必要であった手術が1回で済むため、患者様の身体的負担を大幅に軽減します。しかし、当初は、医師が血管とステントを縫合し自作していたため非常に手間がかかり、品質の安定化も難しいことから普及には至りませんでした。当社ではそのような課題を解決するため、ステントを編む技術等を確立しながら開発を進め、治験を経て薬事承認を取得しました。製品化により品質と安全性が担保されたため広く普及し、2014年の発売から今日までに国内外で2万例以上の使用実績があり、良好な術後成績を残しています。

「FROZENIX」は、その後も医療現場のニーズを踏まえた開発を行い、2022年12月には4分岐人工血管と一体化し、手技時間の短縮に寄与する「FROZENIX 4 Branched」を、2023年8月には合併症の軽減効果が見込まれ、追加治療への対応も考慮した「FROZENIX Partial ET」を発売しました。製品ラインナップの充実により多様な症例に対応できるようになった「FROZENIX」のさらなる普及に努めていきます。



FROZENIX 4 Branched



FROZENIX Partial ET



取締役 CVG事業本部長

村瀬 達也

当社は、大動脈治療におけるフロンティアカンパニーとしてトップシェアの地位を築いております。我々は、大動脈治療領域の戦略として「ALL in for AORTA*」を掲げており、他社に先駆けて一人の担当者が外科的な治療から低侵襲な治療まで全てをカバーするプロダクトポートフォリオを構築し、営業提案の強化を進めてきました。今後もこの方針を継続し、業界において盤石なポジションを堅持してまいります。

*AORTA：大動脈



当社では、2019年1月より事業所周辺の清掃ボランティア活動「クリーンプロジェクト」を開始しました。有志を募り雨天時を除き毎月実施しています。

当初、本社や戸田、小山、市原の各ファクトリーで実施してきた本取り組みでしたが、2022年1月より全国の営業所にも展開し、現在までに6営業所が参加しました。また、同年9月より本社近隣の企業や地域住民の方の参加を募り、これまでに多くの皆さまと活動を実施してきました。

今後も清掃ボランティア活動を通し地域に貢献していきます。

（@TENNOZ 一般参加者募集広告）

<https://www.e-tennoz.com/blog/archives/14067>



会社概要 (2023年9月30日現在)

商号	日本ライフライン株式会社
所在地	東京都品川区東品川二丁目2番20号
設立	1981年2月6日
資本金	2,115百万円
従業員数	連結1,177名 単体958名
連結子会社	JLL Malaysia Sdn. Bhd.

株主メモ

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月
単元株式数	100株
配当金受領株主確定日	3月31日 なお、中間配当を実施する場合の株主確定日は、9月30日といたします。
上場取引所	東京証券取引所 プライム市場
公告方法	電子公告 https://www.jll.co.jp ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

役員 (2023年9月30日現在)

代表取締役社長	鈴木 啓介	社外取締役	佐々木文裕
代表取締役副社長	鈴木 厚宏	社外取締役	池井 良彰
常務取締役	山田 健二	社外取締役	内木 祐介
取締役	高宮 徹	取締役 (常勤監査等委員)	高橋 省悟
取締役	出井 正	社外取締役 (監査等委員)	中村 勝彦
取締役	干場由美子	社外取締役 (監査等委員)	浅利 大造
取締役	村瀬 達也	社外取締役 (監査等委員)	苅米 裕
取締役	江川 毅芳		

株式に関するお問い合わせ

1. 住所変更、単元未満株式の買取・買増請求、配当金受取方法の指定・変更等

▶ 証券会社等の口座に株式をお持ちの株主様
口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。

▶ 特別口座に記録された株式をお持ちの株主様
特別口座管理機関にお問い合わせください。

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話：0120-232-711 (通話料無料)

2. 未受領の配当金について

三菱UFJ信託銀行本支店でのお支払いいたします。

日本ライフライン株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目2番20号
電話 03-6711-5200
URL <https://www.jll.co.jp>



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

当社が2024年6月に開催予定の第44回定時株主総会にかかる株主総会資料につきましては、書面交付請求の有無にかかわらず、従前どおり書面でお送りする予定ですので、書面交付請求を行っていただく必要はございません。